

# 平成25年度 胎内市外国語活動・英語部 活動報告

部長 樋木 ちな美

## 1 研究主題

主体的に活動・授業に取り組む児童・生徒の育成  
～小中連携しての授業公開を通して～

## 2 研究の概要

小学校5学年の外国語活動と中学校1学年の英語の授業公開及び研究協議を通して、各校種における学習内容や活動について理解を深めるとともに、児童生徒が英語によるコミュニケーションに対して興味・関心をもって、主体的に取り組むための授業のあり方や小中連携のあり方を探ることとした。

## 3 研究の実際

(1) 小学校授業研究会 会場 胎内小学校 14:05～ 参加者 14名

① 授業者 中山 朋子 教諭 (胎内小学校)

② 単元名 Hi, friends! 1 Lesson 7

「What's this?」 (本時：2 / 4)

③ 協議会の記録

- ・ 児童と担任、ALT との関係が良好であり、楽しい雰囲気の中、英語を進んで使ってコミュニケーション活動に取り組むことができていた。
- ・ 英語ゲームのバリエーションが豊富で、それぞれが工夫しており、児童が興味を持続して活動に取り組むことができた。
- ・ 担任とALT のデモンストレーションが分かりやすく、児童が見通しを持って、その後のコミュニケーション活動に取り組むことができた。
- ・ 授業のねらいを達成するためには、教師の意図により、コミュニケーション活動にある程度の制限を設定することが必要である。
- ・ 担任もコミュニケーションを楽しむと児童にそれが伝わり、効果的に授業を進めることができる。
- ・ 小学校の外国語活動では、英語で世界が広がることを教えるのではなく、活動を通して肌で伝えていくことが大切である。

(2) 中学校授業研究会 会場 乙中学校 14:35～ 参加者 16名

① 授業者 川村 美香教諭 大橋 正宗教諭 (築地中学校)

② 単元名 TOTAL ENGLISH1 Chapter2 Project

「〇〇さんを紹介しよう」

③ 協議会の記録

- ・ 全教科で取り組んでいるUDLが効果的で、生徒が英語学習に見通しをもって取り組むことができていた。
- ・ 電子黒板を活用し、フラッシュカード的に使用するなど、英単語の習得に効果的な活動を行っていた。
- ・ 活動に入る前に文法事項を確認することは、外国語活動との内容の違いとして大切なポイントであり、生徒が学習内容の理解を深めることにつながっていてよかった。
- ・ 前時の学習プリントに教師がコメント書きをしていたが、どんな所を直したらよいかヒントになる言葉が具体的に書き込んであり、生徒がどこをどのように直したらよいか、自主的に考えることができるように工夫した取組になっていた。
- ・ 生徒の伝えたい表現と、生徒が伝えることのできる表現とが違うことを前提に、英作文の範囲をある程度制限する工夫も必要である。



## 4 成果と課題

(1) 成果

- 小学校と中学校双方の授業を参観し、それぞれの学習内容がどのようにつながっているか、理解を深めることができた。

(2) 課題

- いろいろな学校の様子を知るために、授業実践を持ち寄って紹介し合うなど部会の持ち方を工夫するとよいのではないか。